

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	極めて柔らかい膜環境にあるタンパク質分子のナノ動態イメージングの実現
研究代表者	安藤 敏夫 (金沢大学・バイオAFM先端研究センター・特任教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>高速原子間力顕微鏡（AFM）で世界をリードしている応募者の新しい研究計画がタンパク質分子のナノ動態イメージングである。これまで膜タンパクなどの柔らかい支持基盤でのタンパク質分子の可視化はできなかった。これをカーボンナノチューブ（CNT）製のAFMのカンチレバーなどで克服しようという研究である。この方法は大変意欲的であるが困難を極める。しかし、応募者の予備研究の結果からは実現性が期待できる。また、複雑な生体環境での分子プロセスの可視化で、個々の分子を直接観察しながら生体反応が分子レベルで研究できることにもつながる。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>